

## 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究

## 完了報告書

## 1 実践校について

|      |                                  |      |      |
|------|----------------------------------|------|------|
| 実践校名 | 兵庫県立兵庫高等学校（ひょうごけんりつひょうごこうとうがっこう） |      |      |
|      | 学科名                              | 生徒数  | 学級数  |
|      | 普通科                              | 917人 | 23学級 |

## 2 調査研究の対象

主たる対象

普通科の内、1・2年生未来創造コース（1クラス：41名・39名）  
 実践活動の内容によっては他のクラスの生徒も対象とする。

## 3 調査研究の実施経過

1年生

「創造基礎」の内課題研究分野（3単位）

（年間指導計画は別紙1-1）

2学期（10月～） 課題研究をさらに深めるための県内外でのフィールドワーク及び実践活動

3学期 実践活動の企画・運営、成果発表

具体的内容例（平成27年度の実践例）

- ・真陽防災コミュニティー・長田消防団第七分団主催「水難救助訓練」ボランティアスタッフとして参加
- ・新長田商店街アクタくにつか「こどもいちば」ボランティアスタッフとして参加
- ・新長田商店街アクタくにつか「アスタハロウィン2015」実行委員として参加
- ・神戸長田「下町芸術祭」連携企画として「駒ヶ林水族園」実施
- ・「12<sup>th</sup> ONE HEART」震災復興ライブスタッフとして参加
- ・東尻池地区もちつき大会ボランティアに参加
- ・真野地区もちつき大会ボランティアに参加

「創造基礎」の内座学中心部分（2単位）

2 学期 民主政治と政治参加（法教育）（模擬選挙：自主教材添付）  
財政（租税）・金融、社会保障の仕組み

3 学期 国際社会と日本

- ・ 年度末に生徒の意識変容について調査（対象 1 クラス、対照群 2 クラス）及び分析

2 年生

「創造応用 I」（年間指導計画は別紙 1 - 2）

2 学期 国際問題に関する課題研究

3 学期 国際問題に関する課題研究及び研究発表

課題研究や国際問題に関する実践活動（ワンワールドフェスティバル等）

- ・ 年度末に生徒の意識変容について調査（対象 1 クラス、対照群 2 クラス）及び分析

社会参画推進委員会……12 月、3 月に実施

#### 4 調査研究の実施体制

事業実施のため次の委員会を設置した。

<校外組織>

- ・ 社会参画推進委員会

水山光春（教育評価、社会科教育：京都教育大学教授）

廣岡 徹（教育経営、社会科教育：兵庫教育大学教職大学院 非常勤講師）

東末真紀（シチズンシップ共育企画運営委員）

田中 丈之（神戸市長田区まちづくり推進部まちづくり課長）

上田 弘理（兵庫県企画県民部ビジョン課 主任）

北川真一郎（兵庫県立教育研修所教務部長）

兵庫県教育委員会高校教育課担当指導主事

<校内組織>

- ・ 社会参画に係る調査研究推進委員会

委員長 兵庫高校校長

副委員長 兵庫高校教頭

委員 事務長、主幹教諭、教務部長、未来創造コース・総合科学  
類型委員長、未来創造コース・総合科学類型副委員長、未  
来創造コース・総合科学類型委員

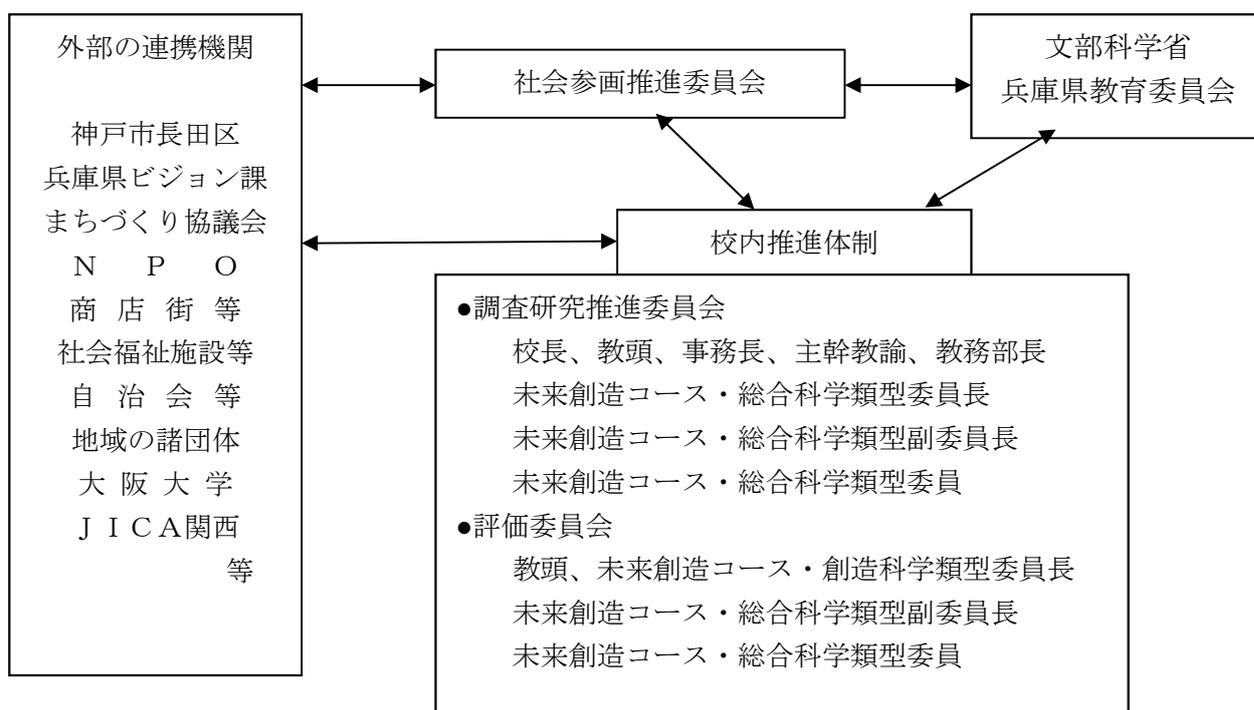
- ・ 社会参画に係る評価委員会

委員長 兵庫高校教頭

委員 未来創造コース・総合科学類型委員長、未来創造コース・  
総合科学類型副委員長、未来創造コース・総合科学類型委  
員

- ・ 社会参画推進委員会（実施状況は別紙 2）
  - 構成……学識経験者、NPO法人代表、地域住民団体代表、行政関係職員（兵庫県、神戸市）、県教育委員会職員、保護者、学校関係者
  - 開催回数……年 2 回
  - 協議内容……プログラム開発及び実施内容・発信方法に関する助言

### 兵庫高校の社会参画に係る実践力育成のための調査研究推進組織の概要



## 5 教育委員会等として取り組んだ内容

県教育委員会では、本事業が円滑に実施できるように、高校教育課担当指導主事を社会参画推進委員会のメンバーとして学校に助言を行うほか、日常的に学校の相談に応じられる体制をとった。

## 6 調査研究の評価等

### 1 社会参画推進委員会における検証

社会参画推進委員会に対して、実施状況について報告するとともに、生徒の活動の参観、生徒の意識変容に関するアンケート結果の報告等を行い、各委員から評価やコメントをいただいた。

### 2 生徒の意識変容に関するアンケートによる検証

平成 27 年 4 月と事業終了前の平成 28 年 2 月に生徒の社会参画に関する意識調査を 1 年生の未来創造コース（1 クラス 40 名）、対照群として一般

クラス2クラス（80名）を対象に行い、比較、分析した。（詳細は様式2-5・別紙5）

これらの検証を通して、学校設定科目「創造基礎A・B」による学びと、課題研究に基づく様々な実践活動により、生徒の社会参画に係る実践力が育成されるとともに、社会に参画する意識も着実に定着していることが確認できた。一方で、生徒が社会参画に積極的に取り組んだ結果、実践活動を行う上で困難を感じたことや、成果を挙げることの難しさを実感したことがアンケートにあらわれている。生徒が社会参画への前向きな姿勢を失わないような指導が求められる。

課題としては、アンケート結果から分かるように、社会参画活動や実践活動に取り組めば、その困難さを感じ、意欲の低下や自身の喪失がみられることが挙げられる。さまざまな活動を通して、現実の厳しさを知りながらも、その意欲を失わせることなく、いかにモチベーションを維持して活動に取り組ませるかが課題である。

中・高校生の社会参画に係る実践力育成のための調査研究  
学習プログラム

実施校名：兵庫県立兵庫高等学校（普通科）

1 概要

地域の諸団体と連携しながら地域の現状と課題を研究し、改善のための提案や解決に向けた実践活動を通して、生徒が地域における主権者として自立するための基礎的な能力や態度を育成する学習プログラムを開発する。また、国際協力に関する課題研究等を通して、地球市民としての基礎的な能力や態度、実践力を育成する学習プログラムを開発する。

2 学習プログラムのねらい

主権者として自立するための基礎的な能力・実践力の育成し、高校生の主権者意識を涵養するとともに、社会の発展に寄与する力の育成を図る。

3 学習プログラムの主な内容

対象：1年生（未来創造コース 41名）

☆ 学校設定科目「創造基礎」（4単位）において、前期（4月～9月）に地域のまちづくりに関する課題研究「“輝ける未来創造都市”神戸の実現に向けて、高校生の力を発揮しよう！」を実施し、グループごとにテーマを設定し施策提言を行うとともに、後期（10月～3月）に課外活動として、課題研究を更に深めるためにフィールドワークや提言に基づく実践活動等を企画・実施した。

☆ 「創造基礎」の内2単位分については、「現代社会」の内容に人口問題、地域課題、選挙や政治、日本経済、国際問題等に関する内容を組み合わせ、主権者として自立するための基礎的な能力を育成した。

① 外部講師による講義

- ・神戸市長田区役所まちづくり推進部まちづくり課長による少子高齢化、多文化共生、中心市街地活性化、震災復興、環境問題、コミュニティー等についての講義
- ・NGO「D.D for Japan」代表呉同國氏による防災教育についての講義

② グループディスカッション

- ・神戸市や長田区の課題やその解決方法についてグループ討議
- ・兵庫県佐用郡佐用町石井地区の地方創生プランの作成

③ 外部講師によるワークショップ

- ・神戸市選挙管理委員会選挙担当職員による若者の投票率の低下についてのワークショップ
- ・兵庫県佐用郡佐用町石井地区の地域づくりセンター長による石井地区の現状と課題、その対策についてのワークショップ

#### ④フィールドワーク（研究テーマに応じて実施）

<地域> 神戸市役所、長田区役所、長田区社会福祉協議会、NPO法人FMわいわい、長田神社前商店街、新長田商店街、兵庫県公衆浴場業生活衛生共同組合などでのフィールドワーク

<地域外> 佐用郡佐用町石井地区、福井大学

#### ⑤ 発表活動

- ・中間発表会：外部評価者として、長田区役所まちづくり課の田中丈之氏、長岡善典氏、FMわいわい和田幹司氏を招いて実施
- ・最終発表会：外部評価者として、長田区役所まちづくり課の田中丈之氏、長岡善典氏、FMわいわい和田幹司氏、佃由晃氏、神戸まちづくり研究所の東末真紀氏を招いて実施
- ・福井大学高大連携ラウンドテーブルに参加(実践活動の発表)

#### ⑥ セミナー・各種大会参加

- ・「高校生鉄人化まつり」企画・運営・参加

#### ⑦ 研究テーマに関連したボランティア活動・実践活動

- ・真陽防災コミュニティー・長田消防団第七分団主催「水難救助訓練」ボランティアスタッフとして参加
- ・新長田商店街アクタくにつか「こどもいちば」ボランティアスタッフとして参加
- ・新長田商店街アクタくにつか「アスタハロウィン2015」実行委員として参加
- ・神戸長田「下町芸術祭」連携企画として「駒ヶ林水族園」実施
- ・「12<sup>th</sup> ONE HEART」震災復興ライブスタッフとして参加
- ・東尻池地区もちつき大会ボランティアに参加
- ・真野地区もちつき大会ボランティアに参加

(参考) <各班の研究テーマ> (1年生)

1班「商店街に活気を！」

2班「銭湯で外国人と交流を深めよう」

3班「防災教育」

4班「長田親子HAPPY計画」

5班「EAT LOCAL KOBE」

6班「動画でとり戻せ！～笑顔が集まる商店街～」

7班「Let's enjoy eating ～災害時でも長田の味を～」

8班「空き地活用 ～駒ヶ林水族園をつくろう～」

## 4 学習プログラムの成果の概要

- ① 外部講師による講義及びワークショップ、生徒間でのグループディスカッションを通して、各自が設定した研究テーマに関する基礎知識を理解し、課題研究への意欲や関心がさらに高まり、研究内容が深化した。
- ② フィールドワーク、研究テーマに関連したボランティア活動や実践活動

を通して、社会に貢献しようとする姿勢、人間関係を構築する力、企画力や行動力などが育まれた。

- ③ 1年間、課題研究や実践活動に取り組むことで、将来の自分の進路や生き方など、自己のキャリアについて主体的に考えようとする姿勢が育まれた。
- ④ 校内外の発表会やセミナー等に参加し、講演会を聞いたり、外部評価者からの評価を受けることで、研究内容が深化するとともに生徒のプレゼン能力も高まった。
- ⑤ 地域課題研究に取り組むなかで「課題解決眼」ともいえる課題発見力が育成され、同時に展開しているSGHの課題研究活動との相乗効果が期待できる。

## 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究 実施方法等

### 1. 実践校について

|      |                                    |     |       |
|------|------------------------------------|-----|-------|
| 実践校名 | 兵庫県立須磨東高等学校(ひょうごけんりつすまひがしこうとうがっこう) |     |       |
|      | 学科名                                | 生徒数 | 学級数   |
|      | 全日制普通科                             | 929 | 24クラス |

### 2. 調査研究の対象

1 学年全員 (普通科、291人、8クラス)

### 3. 調査研究の実施経過

平成25年度 総合的な学習の時間を「リーガルマインド基礎」と題し、法的思考力・判断力をベースにした社会人基礎力の育成を目指した取り組みを開始する

平成26年度 「中・高校生の社会参画に係る実践力育成のための調査研究」の研究指定を受け調査研究に取り組む

平成27年度 研究名が「実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究」に改題され、2年度目の調査研究に取り組む

### 4. 調査研究の実施体制

- ・有識者会議～総合的な見地から特色類型(リーガルマインド)を検証・評価する  
構成：有識者～大学教授  
校長、教頭、リーガルマインド・コーディネーター 他
- ・特色類型委員会～特色類型(リーガルマインド)の方向性を検討する  
構成：校長、教頭、教務部長(正副)、総務副部長、進路指導部、生徒指導部、リーガルマインド・コーディネーター、1学年担任
- ・総合的な学習の時間担当者会～実際に執り行う授業について企画・立案・連絡・調整する  
構成：授業担当者(8名)、リーガルマインド・コーディネーター

### 5. 教育委員会等として取り組んだ内容

県教育委員会では、本事業が円滑に実施できるように、高校教育課担当指導主事が学校に助言を行うほか、日常的に学校の相談に応じられる体制をとった。

## 6. 調査研究の評価等

### ①キャリア形成力の育成

- ・「職業人インタビュー」～長期休業期間中における体験活動

#### <自己評価>

社会人と交流することで社会を意識させ、適切な就労観・勤労観を養いながら学習目標を定め、日々の生活態度の見直しにつなげることができた。

#### <課題>

昨年度同じ取り組みの際、近親者に尋ねる生徒が多く見られたので、極力近親者へのインタビューは避けるように指導したが、今年度もこういった生徒が多く見られた。学習指導の方法に更なる工夫が必要だと感じた。

- ・「こうベカタリ場」～総合的な学習の時間・特別活動

#### <自己評価>

年齢の近い大学生と交流させることで進学について意識させ、学習意欲の向上と生活態度の見直しにつなげることができた。

#### <課題>

実施する時間をもう少しコンパクトにおさえて、事前・事後の学習時間を確保することにより、学習内容を深めることができたように感じる。

- ・「大学研究」～総合的な学習の時間、夏季休業期間

#### <自己評価>

夏季休業期間を利用してオープンキャンパスを体験させることにより、正しい進路観の育成や学習意欲の向上につなげることができた。また、その内容をまとめ・発表させることにより、互いの体験を共有するとともに進路選択の視野を広げることができた。さらに、受験に係る職種の講師を招聘して進学等の意義についての講話を聞かせることにより、学習意欲の向上、生活態度の見直しにつなげることができた。

#### <課題>

オープンキャンパス体験と講師による講話のプログラムをもう少し有機的に連携させることにより、学習内容を深めることができたように感じる。

- ・「仕事の中の法～職業人に学ぶ」～総合的な学習の時間

#### <自己評価>

様々な職種の講師を招聘して職業についての講話を聞かせることにより、学習意欲の向上、生活態度の見直しにつなげることができた。

#### <課題>

関係機関と調整しながら、できればもう少し招聘する講師の職業分野を広げ、生徒の多様なニーズに応えていきたい。

### ②社会人基礎力の育成

- ・「情報モラル～情報社会と人権」～総合的な学習の時間

#### <自己評価>

社会的に問題になっている卑近な事例についての講演であったため、入学後

の指導に非常に有意であった。

<課題>

生徒指導部等の校内関係部署や関連教科・科目「現代社会」・「情報」と連携しながら、さらに理解を深めるプログラムにしていきたい。

- ・「参加型学習～NASAプログラム」～総合的な学習の時間

<自己評価>

昨年度は1班あたり6～8人で構成していたが、これを原則4人にすることで意見交換が活性化した。また、議論をとおして合意形成することの大切さを理解させ、コミュニケーション力を向上させることができた。

<課題>

実施時間をもう少しとることで、生徒自身に議論の大切さを明確に理解させることができるように感じた。

- ・「消費者教育」～総合的な学習の時間・家庭基礎（家庭）

<自己評価>

社会的に問題になっている消費者問題を取り上げることで、高校生も消費者であり、自覚を持った行動が求められることを強く意識させることができた。

<課題>

調べ学習の時間を確保することで、さらに消費者問題に対する理解を深めることができるように感じた。

- ・「道徳教育～モラルジレンマ」～総合的な学習の時間

<自己評価>

学校生活において起こりうる事例を取り上げることで、互いを思いやる態度や姿勢について考えさせることができた。

<課題>

他の事例も組み合わせながらもう少し時間をかけて展開する必要性を感じた。

- ・「ロジカルシンキング」～総合的な学習の時間

<自己評価>

昨年度と比べ、取り上げる内容を精選したことで、ある程度生徒に理解しやすい内容になった。また、社会人には論理的思考が基本的に求められることを理解させることができた。

<課題>

時間的にももう少し余裕を持って取組みたい。できれば数学等関連する教科と連携をとって実施したい。

- ・「ボランティア活動」～特別活動

<自己評価>

学校周辺地域の清掃活動を実施することにより、学校が地域で果たす役割について考えさせることができた。また、地域の役に立ったと言う意識を持たせることにより、自己肯定観につなげることができた。

<課題>

地域の方々を招いて講話してもらおう等、地域についていっそう理解を深める工夫が必要と感じた。

### ③課題解決力の育成

- ・「生命倫理」～現代社会（公民）

<自己評価>

尊厳死の事例を取り上げ、生命の大切さとともに、科学とモラルの折り合いを実生活と結びつけながら考えさせることができた。

<課題>

総合的な学習の時間ともっと連動させることができるように感じた。

- ・「国際理解教育」～総合的な学習の時間・現代社会（公民）

<自己評価>

多様な考え方や価値観、国際協力・支援の実態について学ばせることで、国際支援の必要性について意識させることができた。

<課題>

事前・事後の指導の時間を確保するとともに、プログラムをもっと連動させることで理解を深めることができたように感じた。

- ・「リーガルマインド講演会」～総合的な学習の時間

<自己評価>

総合的な学習の時間を「リーガルマインド基礎」と題して実施している意味について明確に理解させることができた。

<課題>

講師の都合にもよるが、実施する時期をもう少し早めに取り、生徒への意識付けを早くできないかと感じた。

- ・「法教育」～総合的な学習の時間

<自己評価>

弁護士から直接指導を受けることにより、法曹関係者を身近に感じることもできた。また、議論の大切さと公平・公正な態度の重要性、結論は一つではなく多種多様であることを理解させることができた。

<課題>

教育的効果は極めて高かったが、各クラスごとに講義をしていただいたため、費用がかなり必要になった。

## 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究 学習プログラム

実践校名：兵庫県立須磨東高等学校（普通科）

### ①キャリア形成力の育成

- ・「職業人インタビュー」～長期休業期間中における体験活動  
働くことの意義や「やりがい」について、実際に働いている人にインタビューを行わせ、クラス内で発表させることにより、望ましい職業観・就労観を培う。
- ・「こうべカタリ場」～総合的な学習の時間・特別活動  
大学生から高校時代の過ごし方や受験体験、大学での学びについての話を聞くことにより、進路意識の向上と生活態度の見直しを図る。
- ・「大学研究」～総合的な学習の時間・夏季休業期間  
大学の学部・学科について調べ体験することで、進学することの意義について理解を深めさせる。
- ・「仕事の中の法」～総合的な学習の時間  
弁護士、新聞記者、科学者、看護師、弁理士、外国大使館員など、さまざまな分野にわたる講師を招聘し、職業に関する話を聞くことにより、職業に対する理解を深め、望ましい職業観・就労観を培う。

### ②社会人基礎力の育成

- ・「情報モラル～情報社会と人権」～総合的な学習の時間  
警察関係者等の講師を招聘し、講演を聴かせることにより、情報社会におけるネットマナーの大切さや、人権侵害への対応について考えさせる。
- ・「参加型学習」～総合的な学習の時間  
NASA型プログラムに基づいた参加型学習を体験することにより、合意形成の難しさやグループ協議の有意さを理解しながら、コミュニケーション力の育成を図る。
- ・「消費者教育」～総合的な学習の時間・家庭基礎（家庭）  
契約に関する基礎的な事柄について理解させるとともに、悪質商法の被害にあった場合の対応について調べさせ、考えさせる。
- ・「道徳教育」～総合的な学習の時間  
身近な例のモラルジレンマを体験することにより、自立した一人の人間として公平・公正な判断を行いながら、社会人として基本的に求められる共生の理念を有しつつ人生を他者とともにより良く生きることができるとともに、人格の育成を図る。
- ・「ロジカルシンキング」～総合的な学習の時間

ロジカルシンキングの手法を学ぶことにより、与えられた課題の主旨を読み取り、論理的な分析を加え、正しい結論を導き出すことの有為さを理解させながら課題解決能力を育成するとともに、他者と共同して課題に取り組むことを通じてコミュニケーション能力の醸成を図る。

- ・「ボランティア活動」～特別活動

地域の清掃活動を行うことで、学校が地域と切り離すことができない存在であることを理解させ、他者から感謝されることから得られる自己有用観・自己肯定観を実感させることにより、地域における社会的存在について考えさせる。

### ③課題解決力の育成

- ・「生命倫理」～現代社会（公民）

尊厳死等の生命に関する問題を取り上げ、人の命について考えさせる。

- ・「国際理解教育」～総合的な学習の時間・現代社会（公民）

JICAより識者を招き、国際支援の現状に関する講演を聴かせることにより、国際貢献の意義や大切さについて理解させる。

- ・「リーガルマインド講演会」～総合的な学習の時間

外部から講師を招き、法に関する講演を実施することにより、法や規範の意義や役割、司法制度の在り方について理解させるとともに、公正に判断する能力と態度を養い、もって社会的事象に対する客観的で公正な見方や考え方を育む。

- ・「法教育」～総合的な学習の時間

調停に関する身近な例に取り組み、その結果を弁護士の前で発表し、弁護士から直接指導を受けさせる。法曹関係者を身近に感じさせるとともに、議論の大切さと公平・公正な態度の重要性や結論の多種多様性を理解させる。

**実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究  
実施方法等**

**1. 実践校について**

|             |  |            |            |
|-------------|--|------------|------------|
| <b>実践校名</b> | 兵庫県立西宮今津高等学校(ひょうごけんりつにしのみやいまづこうとうがっこう) |            |            |
|             | <b>学科名</b>                             | <b>生徒数</b> | <b>学級数</b> |
|             | 全日制 総合学科                               | 707人       | 18クラス      |

**2. 調査研究の対象**

- ① 生徒の「探究サイクル」が回り始める「産業社会と人間」の授業づくりの中で特に「校外学習から始める探究学習」と2年次の「総合的な学習の時間」を含めた形で「総合学科発表会」をPBLとしてとらえて実践する。
- ② 「尼芋復活プロジェクト」(ジェーン台風で消滅した尼崎の名産尼芋の苗は西宮の今津高校の近くで栽培されていたので、これを復活栽培し、地域で販売できるレシピをつくり商店街の店舗でたてじまアート期間中に販売する)を家庭科食文化の中で実施し、「今津プロデュース」授業生徒が商店街店舗と連絡を取り合いながら「たてじまアートプロジェクト」期間中の「たてじまアートまつり」に各店舗で販売できるようプロデュースする。
- 「応援歌で盆踊りプロジェクト」(2013年、2014年にたてじまアートプロジェクトで制作した地元応援歌による地域の夏祭りでの盆踊りをする)を体育科(振付創作)・情報科(動画作成)で取り組む。
- また、たてじまアートプロジェクトの中でなされていた様々な企画を集め「たてじまアートまつり」として商店街に隣接した網引公園で行い、高校生がこども、大人、商店主と交わり運営することで実現する「おまつり」の主体として取り組む。
- ③ 「1枚の風景画から～1967-2008」展覧会プロジェクトを「美術鑑賞研究」で取り組む。昨年同様、西宮市民ギャラリーにて2016年2月中旬での1週間の会期で展覧会を実施する。

**3. 調査研究の実施経過**

- ① 1年次(240名)で週2時間、火曜日に連続して実施している「産業社会と人間」の2学期(10月～12月)に実施している題材「社会から学ぶ」から、1月30日に実施した「総合学科発表会」までの実践研究

<日程>

|                              |   |                                      |
|------------------------------|---|--------------------------------------|
| 10月13日                       | 火 | ⑤⑥総合校外学習準備、事前指導                      |
| 中間考査 (10/14:水～10/20火)        |   |                                      |
| 10月22日                       | 木 | 総合校外学習(12コース)                        |
| 10月27日                       | 火 | ⑤⑥総合校外学習事後                           |
| 11月6日                        | 金 | 課題研究発表会(午後)                          |
| 11月10日                       | 火 | ⑤⑥総合校外学習まとめ                          |
| 11月17日                       | 火 | ⑤⑥総合校外学習 発表練習                        |
| 11月24日                       | 火 | ⑤⑥コース別発表会                            |
| 期末考査 (11/27:金～12/3:木)/産社成績会議 |   |                                      |
| 12月8日                        | 火 | ③④模擬講義2h(12講座)                       |
| 12月15日                       | 火 | ③④総合校外学習 全体発表会                       |
| H28年1月7日                     | 木 | 学力と探究 二兎を追う探究学習 職員研修会                |
| 1月12・19・26日                  | 火 | 総合学科発表会準備/新書から学ぶ①②③                  |
| 1月30日                        | 土 | 総合学科発表会で40分のステージ発表・展示スペースでのポスターセッション |
| 2月9日                         | 火 | 大谷大学教授 荒瀬克己氏による探究事始め講演会「楽しんごい」       |

②「たてじまアートプロジェクト2015」を美術科3年次選択科目「今津プロデュース」を中心に、家庭科、情報科、体育科が協働して取り組む実践研究

<日程>

| 日程     | 美術科「今プロ」生徒                 | 家庭科「食文化」生徒         | 情報科 生徒 |
|--------|----------------------------|--------------------|--------|
| 4月     | こどもへのイラスト募集                |                    |        |
| 5月     | 商店街店主との連絡                  |                    |        |
| 8日     | 創作えびすかき考案                  |                    |        |
| 28日    | 尼いも栽培                      |                    |        |
| 30日    | まち歩き、作詞開始                  |                    |        |
|        | 選抜イラスト拡大制作                 |                    |        |
| 6月     |                            | 資料による尼いも理解         |        |
| 7月     | アートまつり企画開始                 | 夏課題として尼いもレシピ       |        |
| 17日    | 阪神間モダニズムの詩完成               |                    |        |
| 夏季休業期間 |                            |                    |        |
| 9月 上旬  |                            | 6レシピに絞る            |        |
| 24日    |                            | 6レシピの試作            |        |
| 10月 上旬 | レシピの提案                     |                    |        |
| 10日    | たてじまアート開幕                  |                    |        |
| 24日    | 阪神間モダニズムの歌「ダンモダンダン」レコーディング |                    |        |
| 11月 3日 | たてじまアートまつり                 | 3つのレシピを商店街での販売(完売) |        |

|        |            |  |                                   |
|--------|------------|--|-----------------------------------|
| 10日    | たてじまアート閉幕  |  | 地元応援阪神歌「ダンモダンダン」をPVとして公開するための制作開始 |
| 12月    | 地元発信商品企画開始 |  |                                   |
| H28年1月 | 企画商品発表会    |  | 総学発表会での完成披露                       |

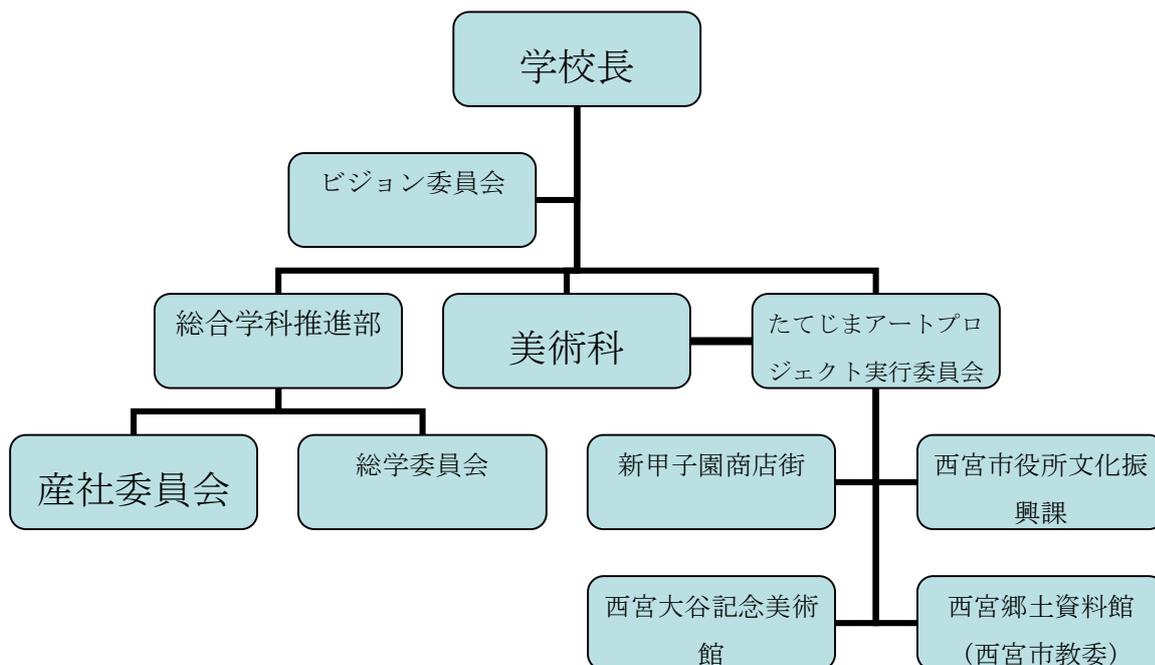
※体育科での盆踊り制作は、創作ダンスの年間計画上の調整がとれず出来なかった。

③3年次選択授業「美術鑑賞研究」で西宮市が保管している1967年に描かれた「西宮十六景」と2008年に描かれた「西宮新百景」の中から2枚の作品を生徒が選び、自ら立てた企画テーマで展覧会を西宮市民ギャラリーで開催する実践研究。

<日程>

|         |                                      |
|---------|--------------------------------------|
| 10月 8日  | 西宮の主だった場所・歴史調べ                       |
| 21日     | 展覧会の企画のためのワーク①                       |
| 11月 5日  | 「アートでたどる西宮探訪展」企画者である西宮市文化振興課課長岩元氏の講義 |
| 18日     | 「アートでたどる西宮探訪展」を鑑賞し、2枚の作品を選ぶ          |
| 12月 10日 | 展覧会企画のためのワーク～⑦まで                     |
| h28年 1月 | 展覧会のための解説文準備                         |
| 2月 8日   | 展覧会搬入作業                              |
| 9日～     | 展覧会受付                                |
| 13日     | 今竹翠氏に高校生が聞く・スペシャルトークと企画解説会           |
| 14日     | 受付、搬出作業                              |

#### 4. 調査研究の実施体制



さらに、平成27年2月に校内にビジョン委員会が設置される。2月12日に第1回委員会が行われ、本研究で取り扱う内容をも含めた大きな学校の進むべき方向性について

検討する委員会として立ち上がった。

3月5日には、兵庫教育大学浅野良夫先生を交え第2回ビジョン委員会を開催

## 5. 教育委員会等として取り組んだ内容

県教育委員会では、本事業が円滑に実施できるように、高校教育課担当指導主事が学校に助言を行うほか、日常的に学校の相談に応じられる体制をとった。

## 6. 調査研究の評価等

### ①「産業社会と人間」から「総合学科発表会」の実践

- ・「総合学科発表会」前のタイムリーな時期に職員研修会を入れることで、職員の探究学習を進める意識が高まった。
- ・生徒の主体的な活動で総合学科発表会に取り組めた。
- ・「総合学科発表会」後の節目となるタイミングで講演会を持つことで、生徒は「探究学習」への展望観を持つことができた。
- ・推進部が中心となり、組織的に連携先を拡大してきたので、これまで連携できた大学・専門学校、研究所、社会施設のリストが増えてきて、何を目的に社会体験をするのかで、連携先をこれまでの中から選べる段階に入ってきた。
- ・動物保護の NPO 団体を訪問したグループは、西ドイツとの比較の中で、日本の社会が動物（ペット）の命を粗末に扱っている問題を指摘した。NPO から社会の持つ課題を学び、高校生の課題意識を深めることも視野に入れて連携先をさがすことも必要。

### ②3 年次美術系選択授業「今津プロデュース」が運営する地域のアートまつりで社会に向き合い、家庭科・情報科が関わる実践

- ・生徒は、「美術」の社会での役割を学び、「美術」を愛好し自ら美術文化を継承する主体としての成長がみられた。
- ・5 年目となる継続型の「アートプロジェクト」は、回を重ねるにつれて、地域と学校との信頼関係を深めている。
- ・参加した子ども、保護者からも支持されている。
- ・「アートプロジェクト」の舞台となる商店街も次年度の開催を望んでいる。

### ③3 年次美術系選択授業「美術鑑賞研究」による「西宮 2 枚の風景画から～高校生・学びの旅～」展による実践

- ・高校生が地元の歴史や文化的な伝統を学び、西宮が文化芸術を大切にしている地域であることに気づけた。
- ・来場者がポストイットで自分の思いを書いて参加できる企画にしたので、西宮のそれぞれの場所へのそれぞれの人の思いを受け止めることができた。
- ・地元の風景画から始める「郷土探究」学習プロジェクトが生徒の地域への自尊感情を高め、地域から暖かく受け入れられていることを実感できた。

## 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究

## 学習プログラム①

実践校名：兵庫県立西宮今津高等学校（総合学科）

## 概要

- 生徒の「探究サイクル」が回り始める「産業社会と人間」の授業づくりの中で特に「校外学習から始める探究学習」と2年次の「総合的な学習の時間」を含めた形で「総合学科発表会」をPBLとしてとらえて実践する。

## 学習プログラムのねらい

- 12 領域別の社会の現場を体験し、専門的な話を実際に知ること、少人数グループで問いを立てて、調べ、考察し、まとめ、発表する中で、社会の課題を知るとともに、探究的な学びの方法についてのスキルを身につける。

## 学習プログラムの主な内容

- ① 1年次「産業社会と人間」での「社会から学ぶ」訪問先

|    |                   |  |
|----|-------------------|--|
| 1  | 農業                | 丹波の有機農家                                |
| 2  | 美術・工芸             | 兵庫県立陶芸美術館                              |
| 3  | 現代社会              | (午前)WHO神戸センター<br>(午後)神戸新聞社             |
| 4  | 福祉                | しあわせの村でのふれあい福祉体験                       |
| 5  | 生活科学<br>(消費生活の安全) | (午前)生活科学総合センター<br>(午後)株式会社宝幸 ロルフ西宮プラント |
| 6  | 科学技術<br>(工業と環境問題) | (午前)JFEスチール東日本製鉄所西宮工場<br>(午後)朝日新聞 阪神工場 |
| 7  | こども               | (午前)キッズニア<br>(午後)西宮市子育て総合センター          |
| 8  | 経済                | (午前)大阪取引所<br>(午後)日本銀行大阪支店              |
| 9  | 伝統文化              | (午前)伝統芸能(えびすかき)<br>(午後)能楽体験            |
| 10 | 自然科学              | 人と自然の博物館                               |
| 11 | 動物                | 動物保護団体 ARK                             |
| 12 | 郷土研究              | (午前)西宮市郷土資料館<br>(午後)阪神甲子園球場・甲子園歴史館     |

- ・各領域へ20名で訪問し、4名のグループで実際の現場を体験して、更に興味を持ったテーマ（問い）を設定し、帰校後、図書・WEB資料を使って調べ・考察・まとめ・発表する。
- ・各領域別の発表会を行い、各領域より代表グループを選出し、学年発表会を行う事で、学年全員が視野を拡げられるようにする。更に、発表者より2グループの代表を選び、1月の「総合学科発表会」の発表者として12月末より準備委員会に加わる。
- ・1月7日（木）に職員研修会を行い、探究学習・その意義と具体的な指導としてのポスターセッションの方法について認定キャリア教育エグゼクティブコーディネーターである石川陽氏より受け、1月以降の「総合学科発表会」に向けた教育活動の中に生かした。生徒の主体的な取り組みになるようスタッフを募り、毎日昼休みにスタッフ会議を行い、各パートリーダーが、「産業社会と人間」の時間にリーダーシップを発揮して、何に取り組むかについて自らの考えを入れながら各パートの準備に取り入れることができた。その結果、「総合学科発表会」のステージ発表では、「産業社会と人間」の1年間の振り返りにとどまらず、自分たちの進路と社会・仕事の「間」で揺れ動きながら、社会の課題を自分の「探究テーマ」と重ね合わせながら、自らの進路について考えてゆこうとする姿勢が意識されてきた。

また、ステージ発表に選ばれた12領域の2領域の代表者だけでなく、他の10領域の代表グループの生徒が、展示スペースで、ポスターセッションに取り組み生徒・教員・来客に対して自分たちのグループのテーマについて対話的なやりとりの中で発表活動を行うことができた。

「総合学科発表会」の振り返りと「探究学習事始め」を狙った「荒瀬克己先生講演会」では、探究学習が「楽しんどい」という堀川高校の生徒が作り出した言葉を例に効果的でキーワードを心に深く刻む節目の時間となった。

## 学習プログラムの成果の概要

○ 仲間と協同的に取り組む楽しさ、探究活動の基礎スキル、社会への関心が深まった。

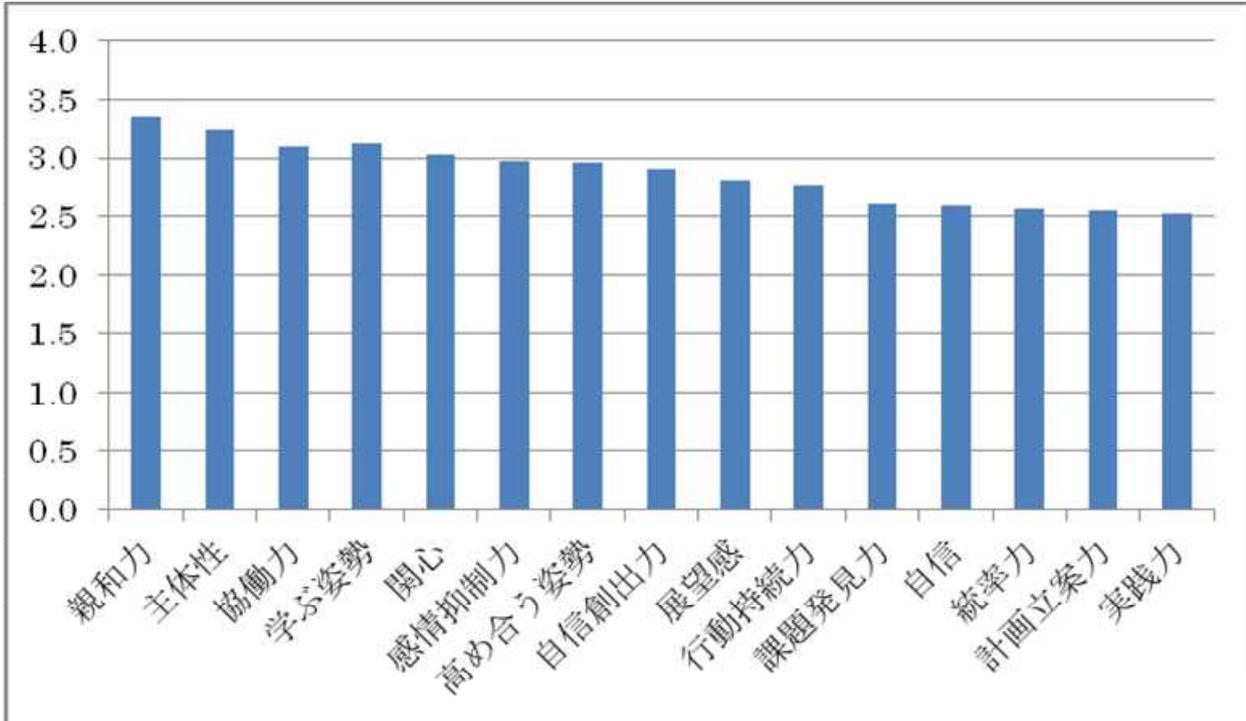
2月9日（火）「社会に出るまでに鍛えたい力アンケート」を実施した。

（39回生 1年次生 230名回収の平均値）

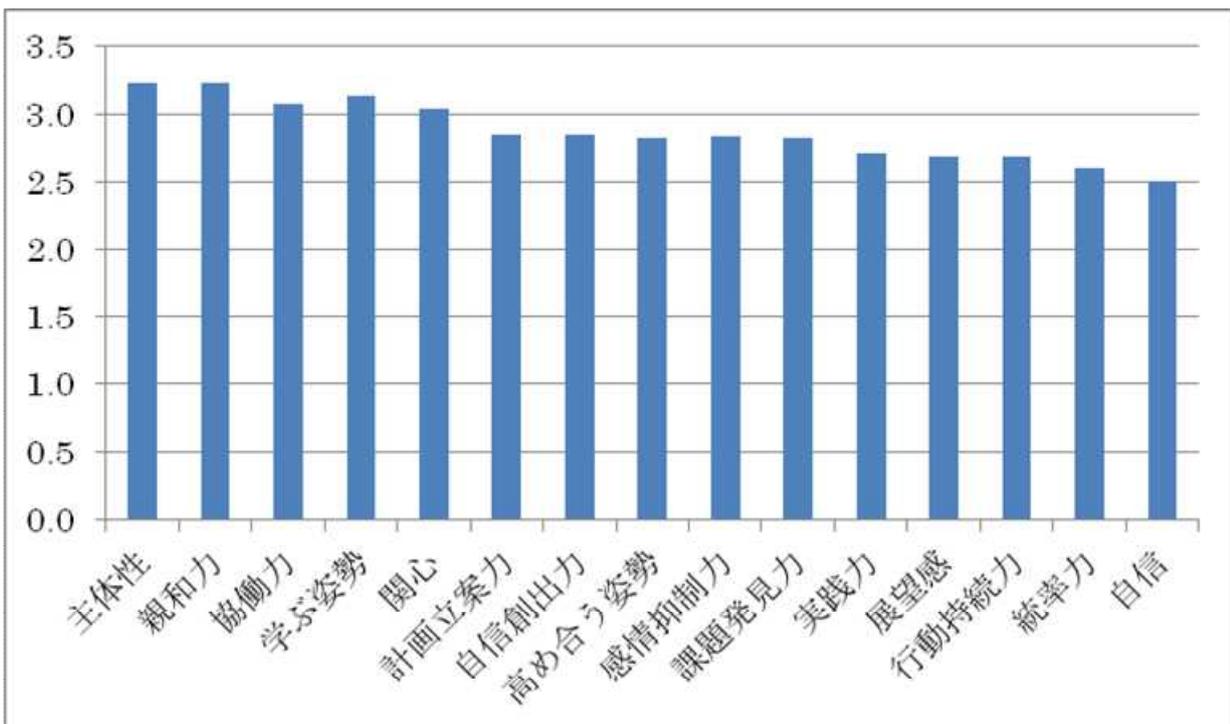
### H27年度 39回生結果

〈アンケート評価基準〉

5 だいぶ高まった 4 高まった 3 やや高まった 2 少し高まった 1 あまり変わらない



昨年度、38回生の同時期アンケート調査との比較



## 実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究

## 学習プログラム②

実践校名：兵庫県立西宮今津高等学校（総合学科）

## 概要

- 3年次美術系選択授業「今津プロデュース」が運営主体となる地域での「たてじまアートプロジェクト」のさまざまな企画に取り組む。家庭科や情報科とも協働する。

## 学習プログラムのねらい

- アートがおこる現場に立ち会い自分の言葉に置き換えることで、「美術文化」は誰もが享受できる表現であることを実感し、生きる力を養う。
- 社会の課題に「美術（アート）」を通して関わられることを実感し、人と人がつながりを作りながら課題を共有する役割が自分たち高校生にもあることを理解する。同時に、「プロジェクト」に関わる地域の人や子どもたちが「美術」を好きになり、地域への愛着が生まれるようにする。

## 学習プログラムの主な内容

- ① たてじまアートボードの制作  
地域の子どもたちから募集した「こんなおまつりあったらいいな」というテーマのイラストを、たてじま模様で拡大制作して、新甲子園商店街アーケードに展示する。
- ② 地元のまちあるきから作詞した阪神間モダニズムの歌作り  
地元甲子園地区に多数ある阪神間モダニズムの香りたどよう建築を巡りながら、地元の歴史を再認識する歌を、歌人や音楽家といったアーティストの協力のもと制作する。
- ③ 創作えびすかき  
西宮に平安時代から1000年続きながら明治期に途絶えた芸能「えびすかき」を、現代の人形文化の中で再生させる創作操り人形芝居をつくる。
- ④ 尼いもレシピの提案と商店街での販売  
本校の家庭科2年次選択科目「食文化」の中で尼いもレシピを制作し、「今津プロデュース」生徒が商店街に提案し、11月3日の「たてじまアートまつり」で販売する。
- ⑤ 「たてじまアートまつり」  
「たてじまアートプロジェクト2015」開催期間中に、「たてじまアートまつり」を開催し、高校生が地域の子どもたちや住民と交流する。
- ⑥ 阪神間モダニズムの歌「ダンモダンダン」を情報科と連携してPVにする。

## 学習プログラムの成果の概要

- 10月3日～11月10日まで新甲子園商店街で「たてじまアートプロジェクト201

5」を開催し、商店街、周辺住民から好評を得た。

- 阪神間モダニズムの歌「ダンモダンダン」のPVが完成し、「総合学科発表会」でも全校生、来校者に披露し、好評だった。
- 「たてじまアートプロジェクト」の運営主体として関わった高校生たちの飛躍的な成長につながった。
- 参加したこどもたちやその保護者、商店街からも喜ばれ、西宮市からも地域振興芸術文化として認知されるようになってきた。
- 「食文化」の提案したレシピは3つの店で採用され完売し、好評だった。